

## App Bridgeのご紹介

クラウドとオンプレミス環境間の監視と運用の効率化を支援

2025/03/12

◎株式会社 日立システムズ



© Hitachi Systems, Ltd. 2025. All rights reserved.

0

## Contents

1. App Bridge の特長
2. App Bridge 統合監視サービス (Monitor)
3. App Bridge タスク制御サービス (Kicker)
4. App Bridge ファイル転送サービス (Transporter)
5. App Bridge 通知サービス (Notification)
6. 利用料



© Hitachi Systems, Ltd. 2025. All rights reserved.

1

1

## 1. App Bridge の特長

Human \* IT

## クラウドの利便性と複雑化するIT運用

クラウド活用には多くの利便性がある  
しかしクラウド活用はIT運用を複雑化し課題を発生させる

### クラウド活用の利便性

- 俊敏性の確保
  - ・必要なときに必要なだけリソースを確保
  - ・豊富なインターネット帯域
  - ・ネットワーク構成要素もすぐに確保  
ロードバランサー、NAT、DNS…etc
- 管理コストの削減
  - ・ハードウェア資産をなくし管理コスト削減
  - ・ハードウェア障害からの解放
  - ・従量課金によるコスト最適化
  - ・WebやAPIによる構成管理
- 開発、環境構築コストの低減
  - ・クラウドを前提とした開発（サーバーレス）
  - ・容易な開発環境構築、運用
  - ・環境構築をソフトウェア化し品質確保
  - ・本番、テスト環境の同一性による品質確保

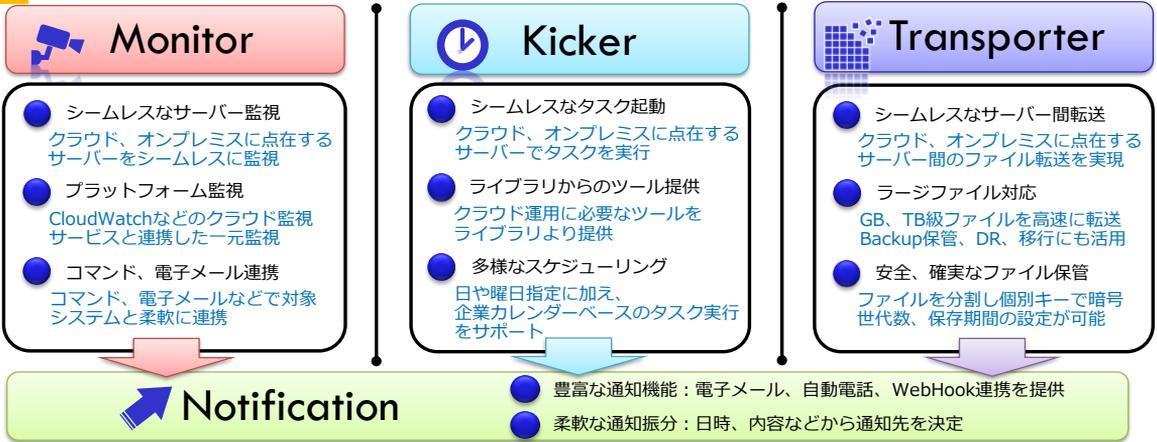


### 膨らみ複雑化するIT運用

- IT運用工数の増加
  - ・コスト最適化を目的としたサーバー起動停止制御の必要性
  - ・クラウド基盤の健全性監視の必要性
- 分散するシステム運用の複雑化
  - ・オンプレミスとクラウドに分散するシステムの運用

Human \* IT

分散環境を一元管理するミドルウェアサービス  
【監視】 【タスク制御】 【ファイル転送】 【通報】



全ての機能をApp BridgeセンターへのHTTPS通信のみで実現  
ほとんどの環境でネットワークを変更することなく導入可能



【App Bridgeの特長】

- マネージャーサーバーレス : 管理サーバー不要で即時利用可能
- One WayのHTTPS : 全ての機能をセンターへのHTTPS通信のみで実現
- 従量課金 : 初期費なしの完全従量課金

## 2. App Bridge 統合監視サービス (Monitor)



### App Bridge Monitorの概要

#### システム全体を見渡す安心感 決めたその日から監視をスタート

システムに散在するサーバーやサービスをインターネット経由で一元監視  
異常を検知した場合には、素早く、かつ確実にお客さまへ通知します  
煩わしい構成変更・設定は不要で、最短1営業日で監視を開始できます

#### ● ハイブリッドクラウドを一元監視

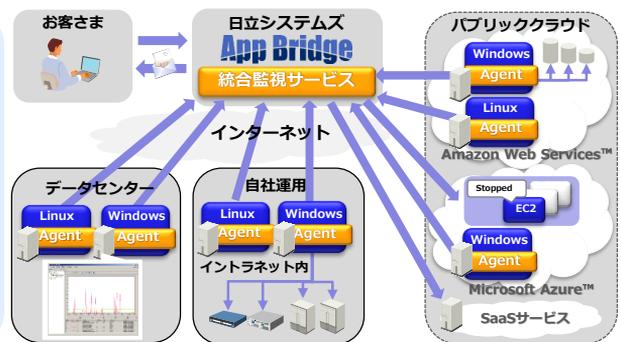
AWS・Azureなどのクラウドサービスからオンプレミスまで混在する環境をシームレスに一元監視できます。

#### ● 電子メール・電話(音声)で通知

異常検知は、電子メールだけでなく電話(音声)で通知できます。通知先の複数登録や、エラー内容・発生時間により通知先を変えることも可能です。

#### ● 容易な導入

管理サーバーは不要で、初期費用なしで始められます。煩わしい設定も不要で、最短1営業日で開始できます。



# App Bridge Monitorの特長

## クラウド環境に対応

プロキシサーバー環境、プライベートIP環境、DHCP環境  
オートスケールにも対応

### 前提条件はHTTPS通信

監視対象から管理サーバーへHTTPS通信できれば導入が可能です。  
そのため「プロキシサーバー環境」「プライベートIP環境」「DHCP環境」  
にも導入できます。

### オートスケール自動追従

オートスケールのインスタンス増減を自動認識します。  
インスタンス増減に伴う設定変更は不要です。  
インスタンスごとにエラー・リソース状況を監視できます。

### 上記を実現する自社特許



日立システムズで独自に開発した「ワンウェイ方式」により、クラウド環境の監視を容易に実現しています。一方通行のHTTPS通信のため、外部から攻撃され難い**セキュアな環境で監視を実現**できます。

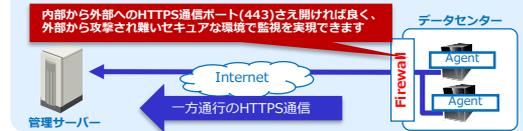
- ・国際特許出願済(PCT/JP2012/055947)
- ・特許取得済(日本:特許5416156号, 米国:US8554829)

### オートスケール自動追従の概念図



- ・インスタンスごとに監視可能
- ・インスタンス増減に自動追従(ユーザーの設定変更は不要)

### ワンウェイ方式 (Agentから管理サーバーへのHTTPS通信のみで監視を実現)



Human \* IT

# App Bridge Monitorの監視機能

## 監視機能一覧

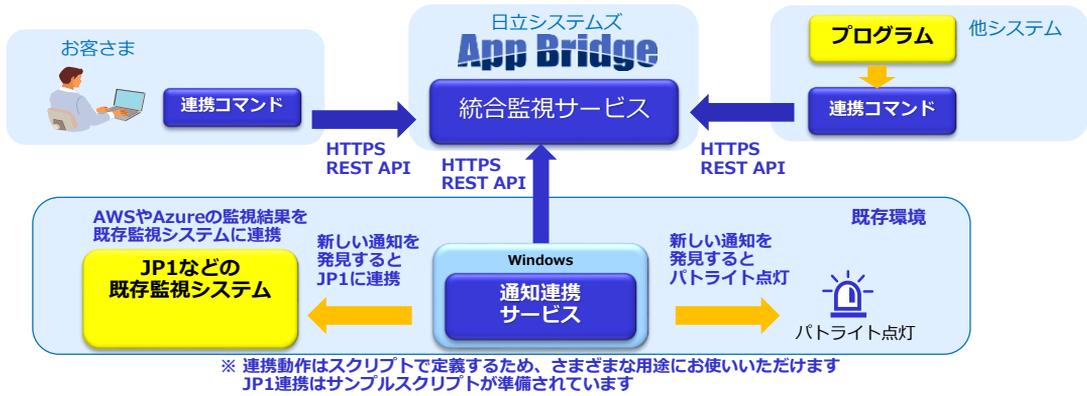
監視項目	内容	
Agent監視サービス	死活監視	エージェントの稼働状況を監視
	イベントログ監視	指定されたイベントログを監視
	テキストログ監視	指定されたテキストログを監視
	サービス監視	指定されたサービスのステータスを監視
	プロセス監視	指定されたプロセスのプロセス数を監視
	メモリ監視	実メモリ、仮想メモリ使用量を監視
	CPU ビジー監視	CPUビジー率を監視
	ディスクビジー監視	ディスクビジー率を監視
	ディスクスペース監視	ディスク使用率を監視
	SQL Server容量監視(※)	SQL Server DB空き容量を監視
SQL Server応答監視(※)	SQL Serverのクエリー応答時間を監視	
応答監視サービス	Ping、HTTP/HTTPS、TCPポート応答時間を監視 グローバルIPアドレスを持たないデバイスはWindow Agentを起点に監視	
ユーザーメッセージ監視サービス	利用者がコマンドで送信したメッセージをトリガーに通報	
電子メール連携	受信した電子メールをトリガーに通報	
CloudWatch連携	AWS CloudWatchのアラートをトリガーに通報	
API監視	AWSのAPIを使用し、仮想サーバーのステータスを監視	
カスタム監視	パフォーマンスモニタ、ユーザー独自監視	

※ Azure SQL Database、Amazon RDS for SQL Server、Microsoft SQL Serverをサポート

Human \* IT

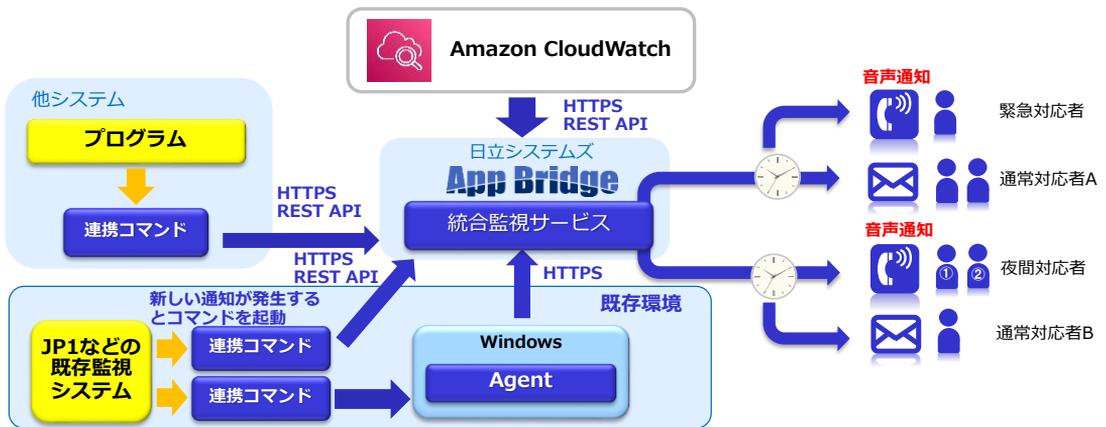
## 監視結果を他システムに連携する

連携コマンドを使用することで、監視状態を参照することができます。  
 通知連携サービスを利用することで、JP1などの既存監視システムと連携できます。  
 統計情報ダウンロードなど、利用頻度の高い機能はコマンドとして提供しています。



## 他システムから通知機能を利用する

既存監視システム、他システムから連携コマンドを使用することで、App Bridge Monitorの通知機能を利用できます。



### 3. App Bridge タスク制御サービス (Kicker)



Human \* IT

### App Bridge Kickerを導入するメリット

#### クラウドとオンプレミス環境間の運用タスクを簡単に自動化

手間のかかる導入・運用作業を簡単に自動化できます



定型業務を簡略化して**運用効率化・品質向上!**



手作業を自動化して**コスト削減!**



複数サーバーにまたがる処理を一元管理して**作業時間短縮!**

#### Kickerの特長



**Webから簡単**に管理・制御

Webから運用タスクの設定や状況を確認



簡単導入で**すぐに利用開始**

プロトコルはHTTPSのみのため導入が容易です



クラウド運用に必要な**ツール提供**

一部のツールはサーバーレスでも利用可能  
App Bridge Monitorと連携して複数の通知先が可能



使った分の費用で**安心**、しかも**低価格**

従量課金制で、低価格から始められます

Human \* IT

## クラウドとオンプレミス環境間のタスク制御サービス

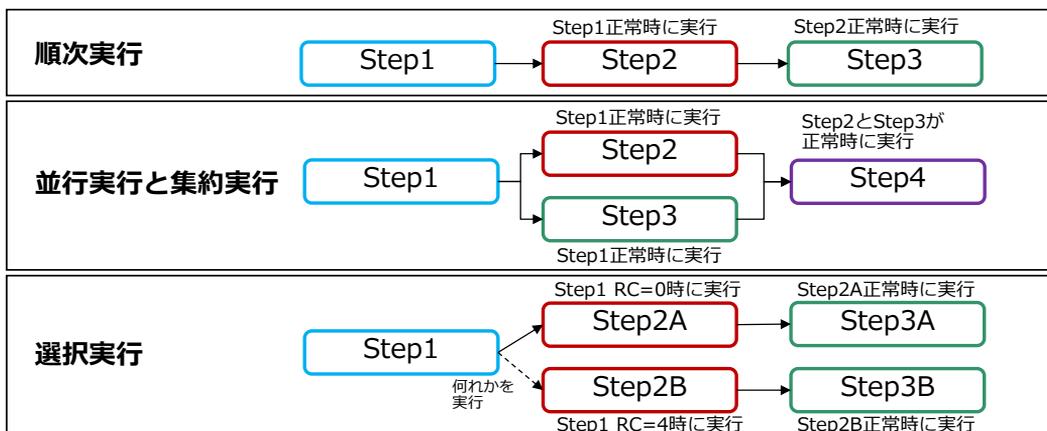
- ・点在した環境での連続したステップを実行が可能です
- ・ブラウザによる結果確認、リラン制御が可能です
- ・使用するプロトコルは、App BridgeセンターへのHTTPSのみのため導入が容易です



Human \* IT

# App Bridge Kickerの概要 - タスクとステップ

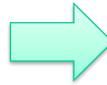
App Bridge Kickerの実行単位は「タスク」  
「タスク」内に複数の「ステップ」を作成し、実行します



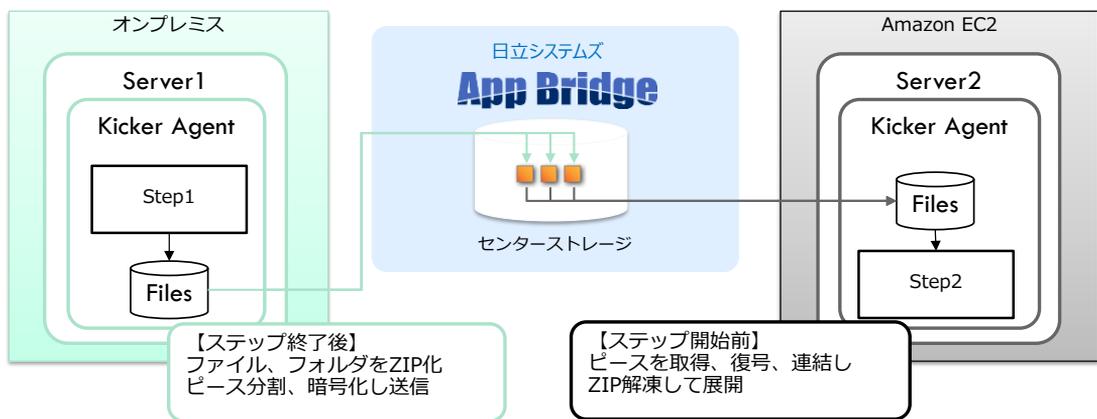
Human \* IT

## 日次、週次、月次、年次でお客様の柔軟なスケジュールを指定可能 複数カレンダーに対応

スケジュールタイプ	実行区分	休日動作	備考
日次実行	毎日実行	・実行しない ・実行する	
週次実行	指定の曜日に実行	・実行しない ・実行する ・前営業日に実行 ・翌営業日に実行	週番号の指定が可能 (第3日曜に実行など)
月次実行	指定の暦日に実行 (各月3日に実行など)	・実行しない ・実行する ・前営業日に実行 ・翌営業日に実行	月の指定が可能 (12月3日に実行など)
営業日実行	指定の営業日に実行 (各月第1営業日に実行など)	-	月の指定が可能 (12月の第2営業日に実行など)



## App Bridgeセンターを経由したステップ間のデータ引継ぎを提供 安全で効率的な転送を実現



## クラウド運用に必要なツールをパブリックライブラリより提供 一部のツールはサーバーレス（センターAgent）で利用可能

### AWS向け標準ツール

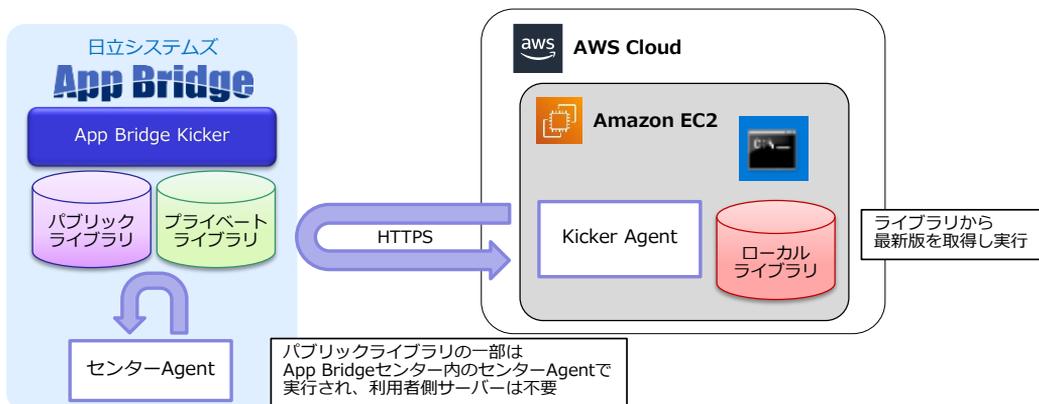
項番	提供機能	ツールID	稼働場所
1	Amazon EC2のサーバーを起動	C1T_SERVER_START	センターAgent、利用者サーバー
2	Amazon EC2のサーバーを停止	C1T_SERVER_STOP	センターAgent、利用者サーバー
3	Amazon EC2のサーバーバックアップを取得	C1T_SERVER_BACKUP	センターAgent、利用者サーバー
4	Amazon EBSのボリュームバックアップを取得	C1T_VOLUME_BACKUP	センターAgent、利用者サーバー

### Windows向け標準ツール

項番	提供機能	ツールID	稼働場所
1	ファイル、フォルダ転送（インポート）	CWT_DATA_IMPORT	利用者サーバー
2	ファイル、フォルダ転送（エクスポート）	CWT_DATA_EXPORT	利用者サーバー
3	Windowsサービスの開始	CWT_SERVICE_START	利用者サーバー
4	Windowsサービスの停止	CWT_SERVICE_STOP	利用者サーバー

運用ツール一覧は [サポートサイト](#) でご覧いただけます。

## コマンド、プログラム起動に加え、ライブラリ機能を提供 利用者プログラムのバージョン管理、配布機能を提供 確実な運用機能を提供



## App Bridgeセンターは、以下の通知を実施 通知先、通知方法は、App Bridge Monitorで変更可能

通知	内容	備考
Abort	ステップが異常終了したことを通知	
Waiting Timeout	予定時刻を過ぎてもステップが実行されないとき通報	タイムアウトの解消も通知されます
Running Timeout	予定時刻を過ぎてもステップが終了しないとき通報	タイムアウトの解消も通知されます
Parallel Control	同一タスク実行制御によりタスク実行が抑止（※1）されたとき通報	
Schedule Error	スケジューリングでエラーが発生したとき通報	
WebHook Error	App Bridge MonitorからのWebHookでエラーが発生したとき通報	

※1：同一タスク実行制御では、ポーズ、リトライ、キャンセルが選択できます。同時実行を許容することも可能です。

## 活用例 1：手順の多いシステム停止を自動化し 運用効率化・品質向上！

こんなお悩みありませんか？



サーバーを停止する際、手順書を見ながら作業をするため時間がかかる  
システム停止時のヒューマンエラーを防止したい



### 手順をタスク化して作業の簡略化を実現

決められた手順でサーバー停止を自動化し、作業時間を短縮  
システム全体の停止を一括制御でき、ヒューマンエラーをなくすることで安全性を向上  
システム停止を関係者に電子メールで自動連絡が可能



## 活用例 2 : 分散しているサーバーから情報を自動で収集 !

HITACHI  
Inspire the Next

こんなお悩みありませんか？



**障害時に分散するサーバーからログを収集するのが大変**

多数のサーバーに対して、ログを手動で取得する手間がかかる



**データ転送機能で分散するサーバーからログの自動収集を実現**

App Bridge Monitorの障害通知をトリガーに起動し、障害サーバーのイベントログ、アプリケーションログを分散するサーバーの中から自動収集し、指定のファイルサーバーに格納。障害サーバーにアクセスしなくてもログの確認ができるため障害状況の確認が迅速化



Human \* IT

© Hitachi Systems, Ltd. 2025. All rights reserved. 22

22

## 活用例 3 : 順次実行するバッチ処理を自動化して運用工数削減 !

HITACHI  
Inspire the Next

こんなお悩みありませんか？



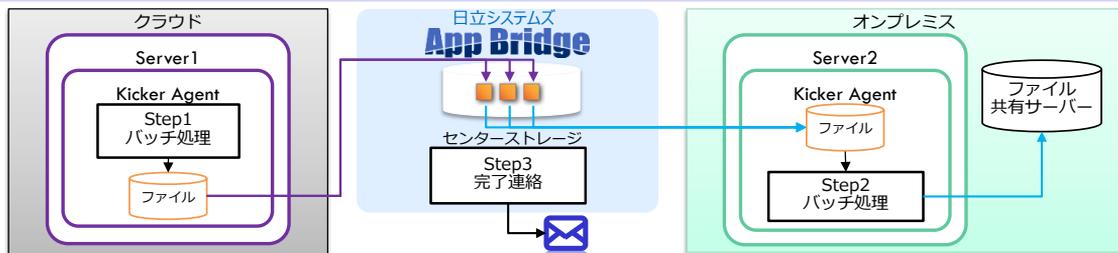
**複数のサーバー間でバッチを順次実行するのが大変**

毎回複数サーバー間で順次にバッチを手動実行しているため業務効率が悪い



**サーバーごとの実行ステップをタスク化し、順次自動実行を実現**

複数のサーバー間でバッチ処理、データ連携をステップとして定義し、自動実行することで業務を効率化。業務関係者に電子メールで自動連絡可能



Human \* IT

© Hitachi Systems, Ltd. 2025. All rights reserved. 23

23

## 活用例 4 : 業務時間外のサーバー停止を自動化しコスト削減!

HITACHI  
Inspire the Next

こんなお悩みありませんか？



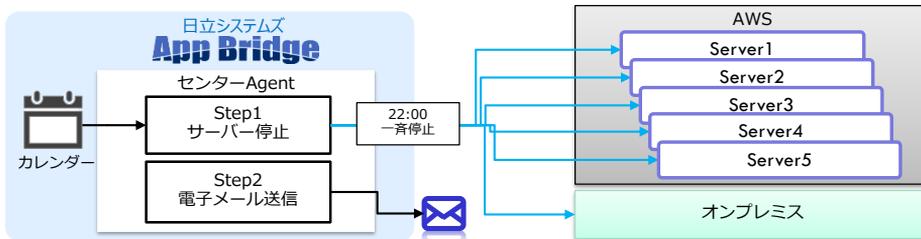
**決められた時間にサーバーを自動停止し、コストを抑制したい**

サーバー停止忘れを防止したい



**クラウド運用ツールで計画的なサーバー停止の自動化を実現**

カレンダーを使ったサーバーの計画的な停止が可能、スケジュール変更も簡単  
クラウド運用ツールでサーバーの一斉停止・自動停止が可能  
サーバーの停止状況を電子メールで自動連絡が可能



Human \* IT

© Hitachi Systems, Ltd. 2025. All rights reserved. 24

24

## 活用例 5 : 有事におけるDR環境切替時間の大幅な短縮を支援!

HITACHI  
Inspire the Next

こんなお悩みありませんか？



**DR環境切り替え時の本番環境復旧に時間がかかる**



**DR環境を自動で最新化してDR切り替え時間短縮を実現**

バックアップからDR環境へのリストアを定期的に事前実行し、有事におけるDR環境の切り替え時間を短縮  
DR環境のバックアップコピー時のみDR環境を稼働させておくことでコストも低減



Human \* IT

© Hitachi Systems, Ltd. 2025. All rights reserved. 25

25

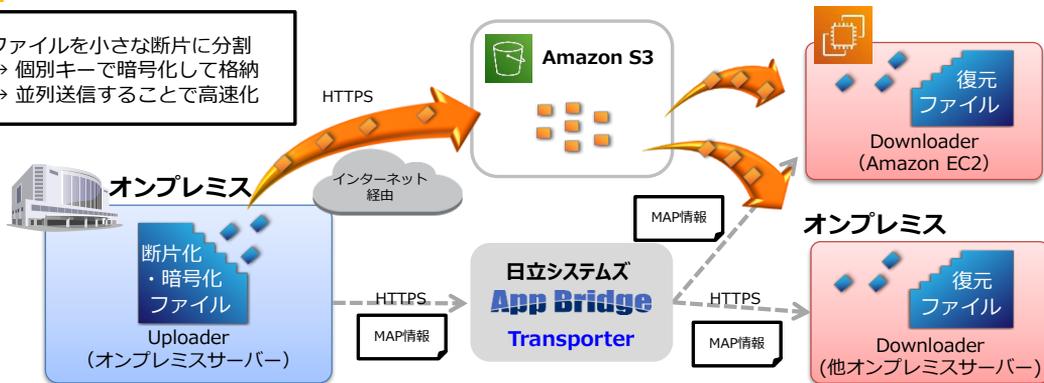
## 4. App Bridge ファイル転送サービス (Transporter)

### App Bridge Transporterの概要

#### クラウドストレージを使ったファイル転送サービス

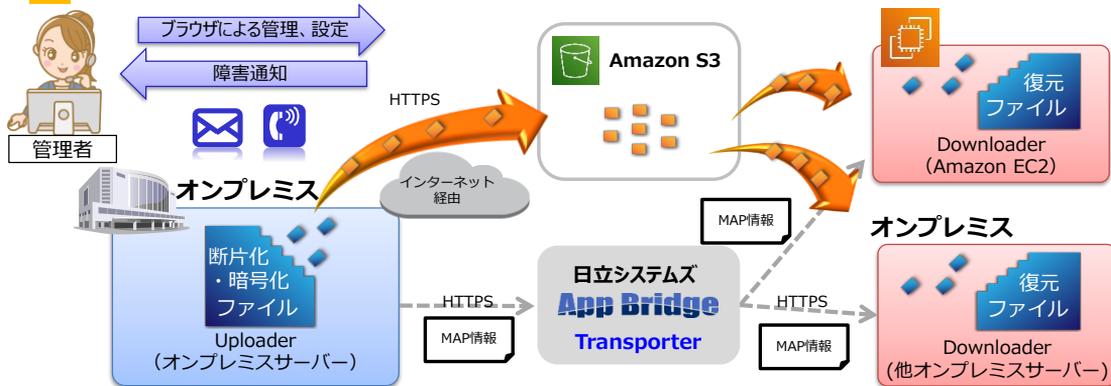
- ・今まで難しかったGB~TBサイズのラージファイル転送を可能にします
- ・インターネットを介してのファイル転送を安全・確実に実現します
- ・App BridgeセンターへのHTTPS通信のみを使用するため、導入が容易です

ファイルを小さな断片に分割  
→ 個別キーで暗号化して格納  
→ 並列送信することで高速化



## ファイル転送に必要な管理機能を提供

- ・ブラウザによる管理・設定（リラン、キャンセル、データ削除）
- ・世代管理、データ保存期間設定、不要データ削除



Human \* IT

© Hitachi Systems, Ltd. 2025. All rights reserved. 28

28

## ファイルの分割と並行転送

- ・ファイルを小さな断片（ピース）に分割し、クラウドストレージに並行転送します
- ・指定ネットワーク帯域に応じ、高速、または低速にファイルを確実に転送します
- ・ピースを個別のキーで暗号化し、データ漏えいを防ぎます
- ・ピースごとにハッシュ確認を実施し、データの完全性を保ちます



● ファイルアップロード例

送信元	クラウドストレージ	ファイルサイズ	所用時間	転送時間/GB
A社様環境	Amazon S3	1GB	30秒	30秒
B社様環境	Amazon S3	20GB	14分	42秒

Human \* IT

© Hitachi Systems, Ltd. 2025. All rights reserved. 29

29

## 活用例 1 : バックアップを遠隔保管してセキュアに管理する

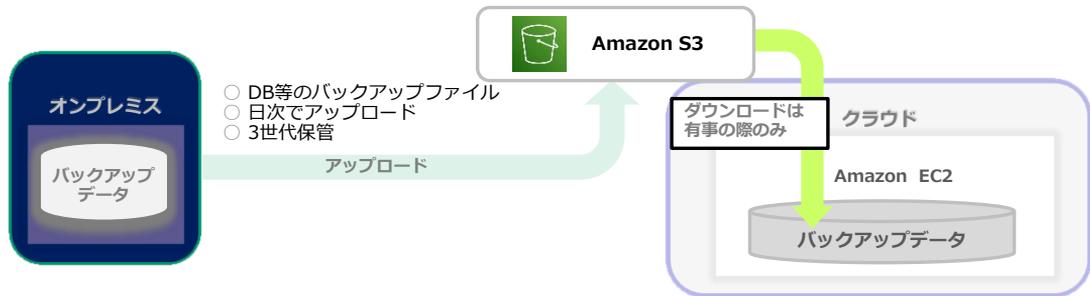
HITACHI  
Inspire the Next

### こんなお悩みありませんか？

障害発生時にバックアップファイルをバックアップサーバーからダウンロードするのに時間がかかる  
バックアップファイルが安全な状態で利用できるか心配

### バックアップをクラウドストレージに保管して高速に活用

- ・ 数十～数百GBのバックアップファイルをクラウドストレージにアップロードします
- ・ アップロードしたバックアップファイルは、分割、暗号化され、世代管理されます
- ・ 有事の際に、高速にダウンロードし、活用できます



Human \* IT

© Hitachi Systems, Ltd. 2025. All rights reserved. 30

30

## 活用例 2 : 大容量ファイルをスムーズに活用する

HITACHI  
Inspire the Next

### こんなお悩みありませんか？

大容量ファイルを他システムへ転送するのに時間がかかる  
転送中にネットワーク障害が発生することで、ファイルが壊れて使用できなくなるのが怖い

### 大容量ファイルを安全に転送してシステム連携を容易化

- ・ 大容量ファイルを小さな断片（ピース）に分割し、並行転送します
- ・ ネットワーク障害などで中断も、送信済みピースを活用し、途中再開します
- ・ 転送終了後、任意のプロセスが起動でき、システム連携が容易です



※1: アップロード途中からピースをダウンロードする機能

Human \* IT

© Hitachi Systems, Ltd. 2025. All rights reserved. 31

31

### 活用例 3 : 遠隔地からデータ収集する

こんなお悩みありませんか？

- 遠隔地からインターネット経由でファイルを収集したい
- 遠隔地からファイルを収集する際にはインターネット環境への影響を最小化したい

#### インターネットへの影響を最小化する遠隔地ファイル収集

- 遠隔地からインターネット経由でファイルを収集します
- 使用帯域を限定することで、インターネット環境への影響を最小化します
- 各地域のアップロード障害発生を確実に通知します



Human \* IT

### 活用例 4 : 遠隔地へデータ配信する

こんなお悩みありませんか？

- 複数の遠隔地へインターネット経由でファイルを一齐配信したい
- 遠隔地へファイルを配信する際にはインターネット環境への影響を最小化したい

#### 遠隔地へファイルを一齐配信する

- 遠隔地へインターネット経由でファイルを配信します
- 使用帯域を限定することで、インターネット環境への影響を最小化します
- 各地域のアップロード障害発生を確実に通知します



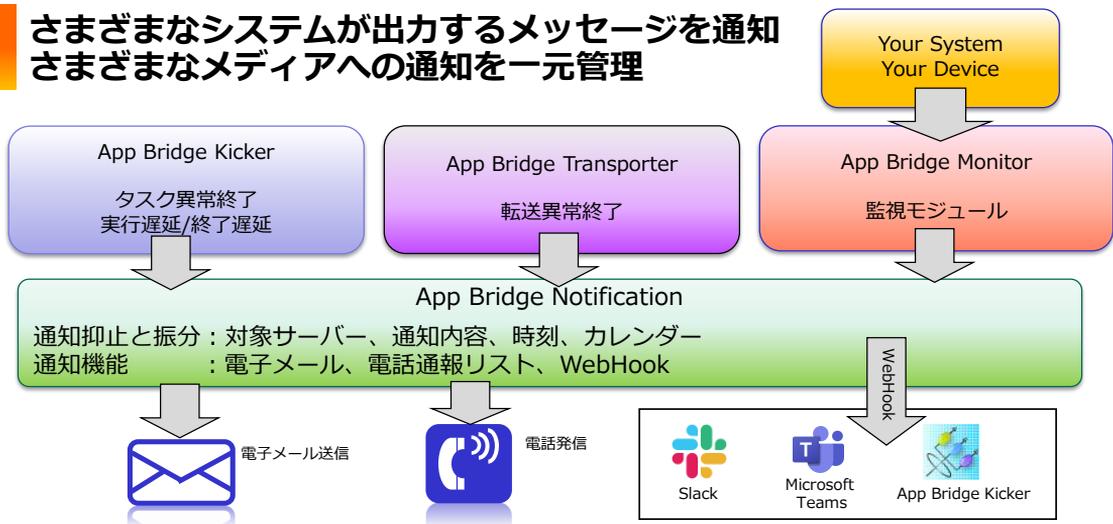
Human \* IT

## 5. App Bridge 通知サービス (Notification)

Human \* IT

### App Bridge Notification

さまざまなシステムが出力するメッセージを通知  
さまざまなメディアへの通知を一元管理



Human \* IT

## 振分け機能

メッセージ・発生サーバー・発生日時によって、**通知方法**(メール/電話)や**通知先**を変更できます。

### ● メッセージによる振分け

メッセージの**種別・内容**(\*)によって通知先・通知方法を変更できます。例ではメッセージ種別「Error」と「Warning」で異なる担当者へ異なる方法で通知しています。



### ● 時刻による振分け

**発生日時**によって通知先・通知方法を変更できます。例では「定時内」と「定時後」で異なる担当者へ異なる方法で通知しています。



### ● サーバーによる振分け

**サーバー、タグ**によって通知先・通知方法を変更できます。例では「サーバーA」と「サーバーB」で異なる担当者へ異なる方法で通知しています。



### ● カレンダーによる振分け

**発生日時**によって通知先・通知方法を変更できます。例では「休日」と「営業日」で異なる担当者へ異なる方法で通知しています。



(\*)：正規表現による指定で、特定文字列を含むメッセージを振り分けることも可能です。

Human \* IT

# App Bridge Notification 電子メール通知

## 電子メール通知

エラー発生時に**電子メール**でユーザに通知できます。電子メールの通知先は**複数**登録できます。



### 電子メール通知先設定画面



Human \* IT

## 電話通知

エラー発生時に電話(自動音声)でユーザに通知できます。  
電話通知先には担当者を複数登録でき、**発信順序**を決めることができます。  
担当者が電話に応答するまで**電話通知先リスト**(発信順序)に従って発信します。



概念図



## 6. 利用料

● Agent監視 利用料金

価格（サーバー監視時間数を単位とした従量制）

ご利用タイプ	タイプ1	タイプ2	タイプ3	タイプ4
リソース情報保有日数	10日間	40日間	100日間	400日間
ご利用単価(／時間)	1.25円	1.75円	2.50円	3.50円
ご参考価格(24時間×30日)	900円	1,260円	1,800円	2,520円

(消費税別)

● 応答監視 利用料金

価格（エンドポイント数を単位とした月額料金制）

ご利用タイプ	タイプ1	タイプ2	タイプ3	タイプ4
リソース情報保有日数	10日間	40日間	100日間	400日間
ご利用単価(／月)	700円	1,000円	1,400円	2,000円

(消費税別)

● API監視 利用料金

価格（監視サーバー数を単位とした月額料金制）

対象	単価
API監視対象サーバー数	700円

(消費税別)

● ユーザーメッセージ監視 利用料金

価格（通知連携されたメッセージ数を単位とした従量課金制）

対象	単価
コマンド、APIで生成されたデータ件数（※1）	0.5円/件数

(消費税別)

# App Bridge Kicker費用

## ● 利用量に応じてプランと課金区分を選択して下さい

月額費用	課金基準	プランA	プランB	プランC	プランD	
プラン基本料	定額	0円	10,000円	50,000円	100,000円	
利用者サーバー費用	ステップ実行した利用者サーバー数	500円/サーバー	サーバー20台まで0円 400円/超過サーバー	サーバー50台まで0円 250円/超過サーバー	サーバー100台まで0円 100円/超過サーバー	
利用者サーバーステップ費用 (※1)	タスクの課金区分タイプ1	利用者サーバーステップ実行回数	5円/回	500回まで0円 4円/超過回数	1,500回まで0円 2円/超過回数	10,000回まで0円 1円/超過回数
	タスクの課金区分タイプ2 (※4)	利用者サーバーステップスケジュール回数	10円/回	8円/回	4円/回	2円/回
センターAgentステップ費用 (※2)	タスクの課金区分タイプ1	センターAgentステップ実行回数	10円/回	500回まで0円 8円/超過回数	1,500回まで0円 4円/超過回数	10,000回まで0円 2円/超過回数
	タスクの課金区分タイプ2 (※4)	センターAgentステップスケジュール回数	40円/回	30円/回	20円/回	10円/回
パブリックモジュール費用 (※3)	タスクの課金区分タイプ1	パブリックモジュールステップ実行回数	10円/回	500回まで0円 5円/超過回数	1,500回まで0円 2円/超過回数	10,000回まで0円 1円/超過回数
	タスクの課金区分タイプ2 (※4)	パブリックモジュールステップスケジュール回数	20円/回	10円/回	4円/回	2円/回
データアップロード費用	データアップロードサイズ	30円/GB	50GBまで0円 25円/超過GB	250GBまで0円 20円/超過GB	500GBまで0円 10円/超過GB	
データダウンロード費用	データダウンロードサイズ	60円/GB	50GBまで0円 50円/超過GB	250GBまで0円 40円/超過GB	500GBまで0円 30円/超過GB	
モジュールダウンロード費用	モジュールダウンロードサイズ(※5)	60円/GB	10GBまで0円 50円/超過GB	50GBまで0円 40円/超過GB	100GBまで0円 30円/超過GB	

※1: 利用者サーバー指定のステップを対象とします ※2: センターAgent指定のステップを対象とします ※3: パブリックモジュール指定のステップを対象とします (消費税別)  
 ※4: 日次スケジュール(または随時スケジュール)のステップスケジュール回数(タスクステップ数×スケジュール回数)を課金基準とします  
 ※5: 1つのスケジュール定義に複数の実行時刻を指定した場合も1スケジュールとカウントされるため、繰返し実行するタスクのコストを低減できます  
 Webサイト、コマンドなどで、オンデマンド生成されたステップインスタンスは、タスク設定に関わらず、タイプ1として課金されます  
 ※5: 利用者サーバーのモジュールダウンロードサイズを対象とします。モジュールはAgentにキャッシュされ、バージョンごとにダウンロードされます

# App Bridge Transporter費用

## ● 標準利用

日立システムズのクラウドストレージを使用するファイル転送サービスを提供します。費用は、アップロード回数、データ保管量、ダウンロード量に応じた従量課金となります。

項目	単位	単価	備考
ファイルアップロード料	回	1.0円	アップロード成功分のみ課金
ファイル保管料	GB/日	1.0円	アップロード成功分のみ課金
ファイルダウンロード料	MB/回	0.1円	ダウンロード成功分のみ課金

(消費税別)

## ● 拡張利用

お客さまが契約したクラウドストレージを使用したファイル転送サービスを提供します。費用は、サーバー数、データ転送回数、データ転送量を基準とした月額固定課金となります。

契約タイプ	月額費用	月ごとのアップロード制御				月ごとのダウンロード制御			
		サーバー数	回数	転送量	サーバー数	回数	転送量		
ミニマム	5,000円	1台	50回	10GB	1台	200回	40GB		
スモール	10,000円	10台	500回	100GB	10台	2,000回	400GB		
ミディアム	25,000円	50台	2,500回	512GB	50台	10,000回	2,048GB		
ラージ	50,000円	100台	5,000回	1,024GB	100台	20,000回	4,096GB		

上記を越えるファイル転送を実施する場合、個別見積となります

(消費税別)

## ● 通知料金

価格（オーナーごとの通知回数を単位とした従量制）

通知方法	単価
電子メール通知	0円/回
電話通知	100円/通知（※1）
WebHook連携	0円/回

（消費税別）

## ● サポート費用

価格（ご契約ごとの月額料金制）

ご契約名	サポート内容	サポート料金
標準サポート	連絡手段：電子メールのみ 対応時間：当社営業日 9:00~17:30 対応内容：App Bridgeに関する技術的な問合せ	0円/月

（消費税別）

## ● 請求手数料

価格（ご契約ごとの月額料金制）

お支払方法	請求手数料
請求書支払い	5,000円/月

（消費税別）

### ■ 他社商品名、商標などの引用に関する表示

- ・ アマゾン ウェブ サービス (AWS)、AWS Cloudアイコン、Amazon CloudWatch、Amazon CloudWatchアイコン、Amazon EC2、Amazon EC2アイコン、Amazon S3、Amazon S3アイコンは、米国およびその他の諸国におけるAmazon.com, Inc. またはその関連会社の商標です。
  - ・ Linuxは、米国およびその他の国におけるLinus Torvalds 氏の登録商標です。
  - ・ Windows、Microsoft Azure、Microsoft SQL Server、Microsoft Teams 、Microsoft Teamsロゴは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標および商標です。
  - ・ Slack、Slackロゴは、Slack Technologies, Inc.の登録商標です。
- ※その他記載の会社名、製品名は、それぞれの会社の商標または登録商標です。

# END

## App Bridgeのご紹介

クラウドとオンプレミス環境間の監視と運用の効率化を支援

 株式会社 日立システムズ

**Human \* IT**  
人とITのチカラで、驚きと感動のサービスを。

48

 株式会社 日立システムズ

49

**HITACHI**  
Inspire the Next